

## 議案第 1 号 令和 4 年度事業報告の件

### 法人本部

- コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事会・評議員会は書面評決による開催といたしました。また、各種研修会もインターネット上での参加としました。
- 郡山聴覚支援学校より依頼を受け、実習生 1 名を 5 日間にわたり受け入れ、生徒さんの学習機会の確保に協力しました。
- 義肢装具士養成校より実習生 1 名を受け入れ学習機会の提供を図りました。
- 長年の懸案事項であった駐車場用地を確保し、事業継続の不確実要素をひとつ払しょくしました。
- 独立行政法人福祉医療機構から借り入れている、長期運営資金借入金 3 千万円のうち 1 千万円を繰上償還し、財政の健全化を図りました。
- 制度の変更に対処するため、出張所・会津製作所を本所・福島製作所に統合しました。
- 出張所・会津製作所の統合に伴い、組織体制を一部変更しました。
- 出張所・会津製作所の統合、車輛の保管場所の確保がありましたので、定款を大きく改正いたしました。これにより、事業区分、拠点区分ともに、本所・福島製作所のみとなりました。
- 遠距離通勤者や、早朝・夜間出退勤者向けにハイブリッド型のテレワークを導入し、職員の負担軽減を図りました。
- 補装具を基準価格の半額程度で提供したほか、補装具の無償貸し出しや、無償メンテナンス、無償修理など地域貢献事業を積極的に展開しました。
- 既製品装具について 4 月に減額改定が行われ、10 月には車椅子の委託生産費が大幅に上昇したほか、年間を通じ義肢、装具、車椅子等の材料費が上昇し、収益の確保を図ることができ

ませんでした。

- 研修会の実施については、出張所・会津製作所の閉鎖があり、十分に機会を確保することができず、インターネット研修により、2回の開催で終わりました。
  1. 令和4年6月 オットーボック社 義肢パーツ利用方法の解説及び、既製品装具の使用方法について
  2. 令和5年3月 今仙技術研究所 義肢の製作実習
- 法人全体の資金収支について申し上げます。今年度の事業活動は、歳入2億101万3396円に対し歳出2億3714万5776円と3613万2380円マイナスとなりました。施設整備等の収支ですが、出張所・会津製作所の売却、本所・福島製作所における、車輛の保管場所の確保などがあり、歳入1592万5827円、歳出4364万2195円とマイナス2771万6358円となっております。その他の活動による収支につきましては、退職職員5名の退職金支払内などもあり、歳入6103万8296円、歳出5399万2867円と709万5429円のプラスとなりました。これは、定款変更により、活動拠点が本所・福島製作所のみとなり、事業区分間の貸付・借入が整理されたこと、退職共済よりの返還金収入などが起因しています。そういったしまして、全体の資金収支差額はマイナスすること、5675万3309円と大幅な赤字決算となりました。なお、令和4年度につきましては、社会福祉充実残額は発生いたしませんでした。以上令和4年度全体の資金収支についてご報告いたしましたが、詳細につきましては、議案第2号決算認定の件においてご説明申し上げます。

#### 業務部

- コロナウイルス感染拡大の影響のため、定期訪問だけではなく、各種施設訪問や自宅訪問など、年間を通じスケジュール調整に苦慮しました。
- 出張所・会津製作所の統合について各所に連絡したほか、通知

文を利用者様に配送しました。

- 出張所・会津製作所の統合に伴い、担当職員や訪問日の変更など、業務体制を大幅に見直しました。
- 業務体制の見直しにより、利用者様の要望に対応できないケースが出てしまいました。
- 施設のケースワーカー、ソーシャルワーカーなどとも連携を図り、退院時の帰宅環境整備に大きく貢献しました。
- 各地の居宅介護支援センターと連携を図り、在宅案件の強化を図りました。

#### 福島工場

- 出張所・会津製作所の統合に伴い、器具・機械、備品の利活用を図りました。
- オリジナルサポーターや装具の開発・研究を行いました。
- 意匠登録 1 件を取得したほか、特許出願、意匠登録、実用新案など、知的財産の取得を積極的に行いました。
- 既製品装具の減額改定に対応するため、オリジナル装具への切り替えを研究検討し、2 件を商業ベースに引き上げることができました。
- 年間を通じ、材料費の値下げ交渉を実施し、値下げ交渉に成功した案件もありました。
- 新規に器具・機械備品を導入することはできませんでしたが、オーブンやミシンのメンテナンスを行いました。

以上